

# オレオサイエンス原稿作成の手引き

原稿の様式および作成は次のとおりとする。

## 1 タイトルページ

原稿の1枚目は表紙とし、原稿の題目、著者名、所属機関名、郵便番号、住所、電話番号、Fax 番号および連絡者名とその連絡先（E-mail アドレス等）を日本文および英文で記入する。

## 2 「総合論文」および「総説」原稿の書き方

2・1 原稿は、表紙、英文および日本文による要旨、本文（図・表を含む）、文献、および著者の顔写真(3×4cm)で構成される。

2・2 原則として、原稿は、本文（図・表・文献を含む）は11,000字(刷り上り6頁)以内とする（図・表は原則として1点を400字としてカウントする）。

2・3 英文による要旨は200語以下で作成し、英語のキーワードを4~5語付ける。日本文による要旨は英文のサイズに準拠して作成する。

2・4 原稿の本文はA4版用紙を縦長に用いて横書きで作成する。原則として、文字数および行数は53字×46行とし、上下に3cm、左右に1.5cmの余白を設ける。

2・5 英文による要旨はA4版用紙を縦長に用いて、50字×32行、ダブルスペースで印字する。

2・6 本文の区分けは原則としてポイントシステムとし、1、1・1、1・1・1のように大見出し、中見出し、小見出しを付ける。

2・7 ゴシック（ゴ）、イタリック（イタ）の書体、および上付き（V）、下付き（ハ）は、原稿に赤で指定する。

2・8 本文に添付する図・表は、A4版白色無地用紙に英文で作成する。図はそのまま縮小して複写印刷できるように鮮明に描く。図の表題と説明は原則として英文で書き、Figure Captionsとして本文の後に別紙で添付する。表の表題も英文とする。ただし、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。また、同一のデータを図と表で重複することはできない。

2・9 文章は簡潔に、常用漢字と現代仮名遣いを用いて書く。外国語（単語、人名、地名、会社名など）は原語またはカタカナを用い、大文字は固有名詞の頭文字に限る。

2・10 略号を用いる場合は、初出の際（ ）にその略号を示す。

2・11 本文中の字句に注を加える場合は、その右肩に注1)のように上付き記号を付け、原則としてその原稿用紙の最下行に注1)と書き、本文との間に線を入れる。注の番号は通し番号とする。

2・12 文中で図と表の説明をする場合は、Fig. 1, Table 1, また文の最後に付けるときは (Fig. 1), (Table 1) のように記入する。図・表は、論文中に1つしかない場合でも Fig. 1, Table 1 のように表示する。

2・13 用語は文部省学術用語集（南江堂最新版）、および本学会（用語小委員会）の推奨する学術用語を用い、記号、符号、数式等は国際的に慣用されたもの、単位は原則としてMKS単位系を用いる。生物の学名、遺伝子名等の表記は、国際命名規則等にしよう。

## 3 その他の投稿原稿の書き方

3・1 原則として要旨は付けない。ただし、必要に応じ日本語による要旨を添付することができる。

3・2 「研究備忘録」、「資料」は、原則として刷り上がり4ページ以内とし、「トピックス」、「新製品ニュース」、「提言」、「オイルコーナー」は、原則として刷り上がり2ページ以内とする。

3・3 「Q&A」、「Eメール」、「求人・求職」、「学会情報」は短く簡潔に書くものとする。

3・4 「Eメール」は誌上でのペンネーム、イニシャル（匿名）を認めるが、投稿の際は、氏名（会員番号）、所属機関名、連絡先（電話番号、Fax番号、E-mailアドレス）を記入した後、本文を短く簡潔に書くものとする。

3・5 その他は「総合論文および総説原稿の書き方」に準ずるものとする。

#### 4 文献

4・1 文献は引用個所に上付きの番号を付して明記する。引用件数は必要最小限にとどめる。

4・2 引用文献の略し方は、Chemical Abstracts に準ずる。

4・3 論文を引用する場合には、次の順で執筆する。

著者名、雑誌名（イタリック）、巻（ボールド）、ページ、（年号）。

（引用例）

1) T. Sakai, H. Sakai, M. Abe & K. Kamogawa, *Oleosience*, **1**, 33 (2001).

2) 吉本敬太郎, 化学と工業, **55**, 582 (2002).

3) 日本油化学協会編, 第四版 油化学便覧, 丸善, p.132 (2002).

4) Y. Takizawa, N. Abe & H. Shimasaki, *Solubilization in Surfactant Aggregates* (S.D. Christian & J.F. Scamehorn ed.), Marcel Dekker, New York, p.333 (1997).

（著者と編者が異なり、単行本の中のある章の部分を引用する場合）

5) Y. Takizawa & M. Abe, *Mixed Surfactant Systems*, Marcel Dekker, New York (1998).

（著者と編者が同じで、単行本のすべてを対象として引用する場合）

6) 菅野道廣, 油脂の栄養と疾病, 原一郎監修, 島崎弘幸, 町田芳章 編, 幸書房, p.150 (1990).

7) 近藤行成, 伊沢禎二, 好野則夫, 第38回 油化学討論会・講演要旨集, 名古屋, p.22 (1999).

8) 大竹勝人, 阿部正彦, 特願 2000-313 599 (2000).

9) 木川 仁, 高木 優, 特開平 10-251 674 (1998).

10) H. Kigawa & S. Takagi, *US Pat.* 5 798 434(1998).

以上